

新除草・調節剤

である。

使用方法：移植水稻に対し、田植後4日から8日の間に10アール当たり3kgを湛水のまゝ、水面に均一に散粒する。適用地域は、普通期全域の壤土から埴土で、縦浸透1日2cm以下の水田に適用される。

使用上の注意：早期移植水稻および稚苗を移植した水稻に対する試験例が少ないため、今までのところこの場合の使用はさける。また、広葉雑草が優先する地帯では早めに処理し、散布の際はまきむらを生じないように均一に散布する。

シメトリン・ブタフロール除草剤 (ブタクロールS)

(取扱メーカー) 三菱モンサント化成株式会社
日本農薬株式会社
三共株式会社

対象作物：水稻

性状・作用特性：本剤は α -クロルアセトアミド系除草剤のブタクロール4%にトリアジン系のシメトリンを1.3%加えた混合粒剤である。

ブタクロールにシメトリンを混入することにより処理適期幅および殺草スペクトラムの拡大をはかったもので、ノビエ2葉期までの土壤兼茎葉処理剤である。殺草力についてもブタクロール単剤が、既に発生しているコナギ、ミゾハコベ、キサシグサに対してやゝ効力が劣るのに対し、シメトリン・ブタクロールの混合剤はこれらに対してもすぐれた殺草効果を示している。

毒性：人畜毒性はブタクロールが $LD_{50} = 1740 mg/kg$ (ラット) でシメトリンが $LD_{50} = 535 mg/kg$ (マウス) である。魚毒性はBランクで通常の使用法では影響は少ない。

使用方法：移植水稻に対し、田植後4日から12日の間に10アール当たり3~4kgを湛水のまゝ、水面に均一に散粒する。適用地域は普通期全域の壤土から埴土で縦浸透1日2cm以下の水田に適用される。

使用上の注意：早期移植水稻および稚苗を移植した水田に対しては試験例が少ないため、使用はさける。また高温時の使用をさけ、なるべく健苗を使った水田に散布する。

フェノチオール・ブタクロール除草剤 (CP-19H)

(取扱メーカー) 三菱モンサント化成株式会社
北興化学工業株式会社

対象作物：水稻

性状・作用特性：本剤は α -クロルアセトアミド系除草剤のブタクロール4%にホルモン型のフェノチオールを0.6%加えた混合粒剤である。

この混合剤の特色は一年生水田雑草に対して極めて強力な殺草性を示し、特にマツバイに対しては効果が高いことである。処理時期もブタクロール単剤よりは幅が広く、ノビエの2葉期まで有効な土壤兼茎葉処理剤である。毒性は通常の使用法では問題がなく、魚毒性に関しても通常の使用法では影響が少ない。

使用方法：移植水稻に対し、田植後4日から12日の間に10アール当たり3kgを湛水のまゝ水面に均一に散布する。適用地域は北海道、九州を除く、普通期地帯の壤土から埴土に対し適用される。漏水は1日2cm以下の範囲内が好ましい。

使用上の注意：砂質土および漏水の大きい水田では使用をさけ、早期移植水稻および稚苗移